

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	みやき町立三根中学校
1 前年度 評価結果の概要	・本校の生徒でよかったという生徒が2・3年生では90%以上であった。重点目標の「学習指導の充実」と「自己指導能力の育成」が学校教育目標の実現につながった。 ・今年度の課題は、①新学習指導要領に則った教育の充実と働き方改革の推進の両立を図ること、②特別支援教育の充実、③教育相談の充実である。
2 学校教育目標	三根中学校に誇りをもつ生徒を育てる ～自主、自律、寛容の態度形成を通して～
3 本年度の重点目標	①新学習指導要領の趣旨に沿った授業評価及び学習者評価の検討 ②特別支援教育の充実（特別支援教育コーディネーターと通常学級担任の連携等） ③教育相談の充実

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートにおけるマイプラン成果指標の達成(教師85%以上)	・教職員間でマイプランを共有 ・学力向上の取組の成果及び課題共有	B	・教職員個々のマイプラン成果指標と達成に向けた声掛けを随時行ったが、成果と課題のとりまとめには結びついていない。 ・教科横断し、成果指標を共有する方策を検討する。	B	・できるだけ取り組みを具体的にし、学校、保護者、地域で取り組みたい。評価と検証は妥当である。
	○学習指導の充実	○学習状況調査の前年度正答率(経年)の向上	・指導要領の求める評価の在り方の探究 ・指導方法の工夫改善 ・思考させる学習課題の提示	A	・県調査において、1年は全ての教科で対県費1.1以上、2年は社会1.15、他の教科は1.0前後であった。2年の対県費経年比較では2教科で減退、3教科で伸長している。各教科の領域別の課題確認を行った。	A	・比較対象が妥当かどうか、単純比較するだけにならないよう留意すること。 ・落ち着いた学習環境も成果につながるが考えられる。
	○特別支援教育の充実	○切れ目のない支援体制を構築	・個別の支援計画、指導計画の様式を含め、取り扱いを検討 ・校内の連携機能の充実 ・小中間の連携の確認	A	・個別の支援計画、就学相談を組織的に行った。 ・次年度、中学入学予定の小6年生及び保護者との事前相談や学校見学を実施するなど、小中の連携を図った。 ・入学式前に支援計画の策定協議を行う予定である。	A	・現在の取り組みを継続させてほしい。 ・手立て優先で差別化につながらないようにすべき、特別支援教育も皆と一緒にの中でやるべき。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳」に対する生徒の肯定的評価の割合の向上(90%以上)	・道徳の授業、全領域での道徳性の追究、実践促進 ・道徳の授業における記録票の作成と活用	A	・生徒対象のアンケートの質問「道徳の時間は大切だと思う」に対して、1年91%、2年88%、3年91%が肯定的評価であった。 ・道徳の授業や取り組みについて周知方法を検討する。	A	・評価は妥当だと思うが、社会事象とかけ離れないように。国内外の事件を考えると、道徳教育の必要性を強く感じる。考える力をつけさせてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○2回実施するQ-U結果において、2回目で不満足群、非承認群を減少	・日常生活の観察 ・生活アンケートを実施(11回) ・協議会等にて状況確認と対応協議	A	・年間のいじめ防止対策検討委員会における認知件数は10件であった。生活アンケート、いじめアンケートを実施し、状況把握に努めた。 ・QUでは、不満足非承認群は減少した。	A	・実施した取組も大切だが、内容はどうかであったか、ということを確認してほしい。 ・学校の中でいろいろな体験をする中で、基本的なマナーを考えさせたい。
	◎三根中学校に誇りをもつ生徒の育成	○三根中所属への肯定的評価の向上(90%以上)	・生徒会活動、学年経営、学級経営の充実 ・家庭(保護者)との連携 ・定期的に生活アンケートを実施し、学校行事と生徒の意識変容の教育効果を検証	A	・「三根中に入学者よかった」という質問に対して、1年生100%、2年生98%、3年生96%、保護者97%が肯定的評価であった。 ・感染症対策による行事の縮減や中止があったが、代替の取り組み等が評価できる。	A	・評価方法、評価は妥当である。しかし、アンケートの結果のうち少数でも「そう思わない」という部分を大切に扱ってほしい。
	○教育相談の充実	○個別の教育相談を確実に実施(全生徒、2回)	・教育相談を計画的に実施 ・緊急時の相談体制を検討 ・SC、SSWとの連携の強化	A	・個別の事案に対して組織的、中長期的な対応が十分とれていない点が課題である。 ・SCとの連携は年度途中より、教員との情報交換が増加するなど密にできた。	A	・評価方法、評価は妥当である。学校だけで解決できない問題も増えてきている。専門家や関係機関を必要に応じて活用していく。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○朝食喫食率の向上(100%)	・食育指導の充実(年間計画による遂行)	B	・「学校は、食育や健康づくりの指導の充実に取り組んでいると思う」という質問に対しての保護者の肯定的評価、そう思う28%、だいたいそう思う61%であった。啓発、広報を検討する。	B	・食文化が欧米化し、家族の在り方が変わってきているので難しい問題である。 ・少しでも食文化を大切にできるよう、取り組んでほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	○前年度の超過勤務時間(平均、個別)を下回る。	・超過勤務時間の実態に即した把握 ・業務調整及びメンタルヘルスの工夫 ・メンタルヘルスに係る職員研修の実施 ・超過勤務過多職員に個別にアライジング実施	A	・時間外在校時間の実態把握と課題改善に努めた。部活動休養日と定時退勤日の取り組みの成果が見られる。 ・昨年度(6月～2月)と比較し、9月中6月で平均時間が減じた。また、年間(6月～2月)平均が、39.0時間から33.9時間まで縮減できた。	A	・教員の役割は増えてきている。欧米のように分業化を進めるべきである。 ・時間だけの問題にしないよう、合理化や機能性の向上も考えるべき。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
○小中連携	○小中の相互理解に基づく教育の活性化	○小学生が中学校に対してあこがれをもつように、中学生に活躍の場を与える。小学校と協力して活動できたという生徒を85%以上にする。	・小中連携挨拶運動の企画 ・小学校体育大会へのボランティア参加 ・合同研修等の実施	A	・小中連携の取り組みとして、あいさつ運動、小学校体育大会ボランティア、教職員合同研修を実施した。 ・コミュニティスクールに係る学校運営協議会の在り方について、小中連携を前提に協議した。	A	・取組の内容は、状況を考えれば充分であったろうと思われ。 ・検証するのはなかなか難しいだろうが、地元を大切にしようという心を育てていくために、小学校中学校の連携は太くしてほしい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	① 学習状況調査結果、アンケート回答内容より、学習環境は一定の水準にある。しかし、多くの生徒自身が主体的に学びに向かうまでには至っていないことが課題である。 ② 特別支援教育は学級所属の生徒に対する支援の成果を、最終学年の進路決定に見ることができた。次年度、これまでと異なる支援を要することが予想されるため、その対応が必要である。 ③ 教育相談は年度途中から充実した。生徒指導との連動も図れていることが評価できる。しかし、生徒の主体性が増せばストレスも増えることが予想されるため、その対応が必要である。
--------------------	---